

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成27年11月9日

【四半期会計期間】 第151期第2四半期(自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日)

【会社名】 株式会社京三製作所

【英訳名】 Kyosan Electric Manufacturing Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 社長執行役員 戸 子 台 努

【本店の所在の場所】 横浜市鶴見区平安町二丁目29番地の1

【電話番号】 045 - 501 - 1261 (代表)

【事務連絡者氏名】 経理部長 吉 田 伸 之

【最寄りの連絡場所】 横浜市鶴見区平安町二丁目29番地の1

【電話番号】 045 - 503 - 8106

【事務連絡者氏名】 経理部長 吉 田 伸 之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第150期 第2四半期 連結累計期間	第151期 第2四半期 連結累計期間	第150期
会計期間		自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高	(百万円)	20,880	19,397	63,139
経常損失()又は経常利益	(百万円)	2,546	2,670	2,323
親会社株主に帰属する 四半期純損失() 又は親会社株主に帰属する 当期純利益	(百万円)	1,898	1,799	1,014
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	842	2,007	3,894
純資産額	(百万円)	35,018	37,119	39,441
総資産額	(百万円)	76,791	77,795	86,135
1株当たり四半期純損失金額() 又は1株当たり当期純利益金額	(円)	30.27	28.68	16.18
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	45.6	47.7	45.8
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,728	2,457	940
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	1,190	1,685	1,221
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	2,434	2,286	8
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	2,953	3,069	4,623

回次		第150期 第2四半期 連結会計期間	第151期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日	自 平成27年7月1日 至 平成27年9月30日
1株当たり四半期純損失金額()	(円)	10.78	7.11

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期純損失()又は当期純利益」を「親会社株主に帰属する四半期純損失()又は親会社株主に帰属する当期純利益」としております。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）において営まれる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

（電気機器事業関連）

電気機器事業の拡大を図ることを目的としてKyosan USA Inc.を新規設立し、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

（信号システム事業関連）

インド市場における信号システム事業の拡大を図ることを目的としてTVM Signalling and Transportation Systems Private Limited の株式を取得し、当第2四半期連結会計期間より持分法の適用範囲に含めております。

この結果、平成27年9月30日現在では、当社グループは、当社、連結子会社10社、非連結子会社1社、持分法適用関連会社2社の計14社で構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響をおよぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われていません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

（1）経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、中国をはじめとするアジア新興国経済の不安定化により景気の下振れリスクも懸念されるなか、引き続き各種政策の効果が下支えとなり緩やかな回復基調で推移いたしました。

一方、当社グループの事業環境は、国内外ともに他社との競争が激化し、厳しい状況で推移しております。

このような事業環境の下、当社グループは今年度より3ヵ年の中期事業計画をスタートし、グローバル事業展開加速を中心とした「成長戦略の推進」および利益確保に向けた既存領域における「事業構造改革」に取り組んでおります。

受注につきましては、電気機器事業は産業機器用電源装置の需要が継続し前年同期を上回ったものの、信号システム事業における国内大口案件一巡が影響し、全体としては前年同期を下回りました。売上につきましては、信号システム事業、電気機器事業ともに大口案件が少なく、前年同期を下回りました。

利益面につきましては、金融機関との借入契約更新に伴う金融費用や為替差損の発生の影響があったものの、原価率改善や投資有価証券償還益の計上により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期を上回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、受注高30,062百万円（対前年同期比1,895百万円減）、売上高19,397百万円（対前年同期比1,483百万円減）、営業利益 2,608百万円（対前年同期比229百万円増）、経常利益 2,670百万円（対前年同期比124百万円減）、親会社株主に帰属する四半期純利益 1,799百万円（対前年同期比99百万円増）となりました。

セグメント別の業績概況は、次のとおりであります。

〔信号システム事業〕

受注につきましては、小田急電鉄運行管理装置、千葉都市モノレール動物公園機器室ATC装置、東京地下鉄ホームドア改良工事、米国タンパ国際空港APM信号設備などがありました。売上につきましては、仙台市高速鉄道東西線、阪神電気鉄道青木駅、台湾在来線用などの各種信号設備がありました。しかしながら、前年同期に比べて大口案件が少なかったことから、受注・売上ともに前年同期を下回りました。

この結果、受注高23,376百万円（対前年同期比3,448百万円減）、売上高15,344百万円（対前年同期比1,369百万円減）となりました。なお、セグメント利益は 475百万円（対前年同期比493百万円増）となります。

〔電気機器事業〕

受注につきましては、通信設備用電源装置は低調に推移したものの、産業機器用電源装置において中国の活発な設備投資により液晶パネル製造装置用電源装置の需要が増加したことから、前年同期を上回りました。売上につきましては、産業機器用電源装置は堅調に推移したものの、通信設備用電源装置が低調に推移したため、前年同期を下回りました。

この結果、受注高6,686百万円（対前年同期比1,553百万円増）、売上高4,053百万円（対前年同期比113百万円減）となりました。なお、セグメント利益は 70百万円（対前年同期比79百万円減）となります。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて8,339百万円減少し、77,795百万円となりました。主な増減は以下のとおりであります。

資産の部は、たな卸資産が6,074百万円増加し、受取手形及び売掛金が13,869百万円減少しました。

負債の部は、支払手形及び買掛金が1,456百万円、借入金が短期、長期あわせて1,930百万円減少しました。

純資産の部は、利益剰余金が2,112百万円減少しました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物は、前第2四半期連結会計期間末に比べ115百万円増加し3,069百万円となりました。当四半期連結累計期間に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は以下のとおりであります。

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、2,457百万円のプラスとなり、前第2四半期連結累計期間に比べ729百万円増加しました。

これはたな卸資産の増減額が1,348百万円減少したことが主な要因であります。

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、1,685百万円のマイナスとなり、前第2四半期連結累計期間に比べ支出が495百万円増加しました。これは関連会社株式の取得による支出が118百万円増加したことに加え、有形、無形固定資産の取得による支出があわせて276百万円増加したことが主な要因であります。

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、2,286百万円のマイナスとなり、前第2四半期連結累計期間に比べ147百万円増加しました。これは借入金の収支が短期と長期あわせて135百万円、収入側の増加となったことが主な要因であります。

(4) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費は、信号システム事業578百万円、電気機器事業356百万円、共通研究開発費287百万円で、総額1,222百万円であります。

研究開発につきましては、事業戦略の上で急務となっております製品開発および製品改良等の研究課題に取り組んでおります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	160,000,000
計	160,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年11月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	62,844,251	62,844,251	東京証券取引所 (市場第一部)	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式です。 単元株式数は1,000株です。
計	62,844,251	62,844,251		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成27年7月1日～ 平成27年9月30日		62,844,251		6,270		4,625

(6) 【大株主の状況】

平成27年9月30日現在

氏名または名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内1丁目6番6号	6,089	9.68
京三みづほ会	横浜市鶴見区平安町2丁目29番1号 株式会社京三製作所資材部	4,015	6.38
株式会社横浜銀行	横浜市西区みなとみらい3丁目1番1号	3,124	4.97
京王電鉄株式会社	東京都新宿区新宿3丁目1番24号	2,971	4.72
京三製作従業員持株会	横浜市鶴見区平安町2丁目29番1号	2,862	4.55
CBNY-GOVERNMENT OF NORWAY	388 GREENWICH STREET, NEW YORK, NY 10013 USA	2,223	3.53
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 信託口	東京都中央区晴海1丁目8番11号	1,556	2.47
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 信託口	東京都港区浜松町2丁目11番3号	1,397	2.22
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	1,350	2.14
明治安田生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内2丁目1番1号	1,007	1.60
計		26,596	42.32

(注) スパークス・アセット・マネジメント株式会社から平成24年5月17日付の変更報告書(大量保有報告書)の写しの送付があり、平成24年5月15日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けましたが、当社として当事業年度末現在における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
なお、大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
スパークス・アセット・ マネジメント株式会社	東京都品川区東品川2丁目2番4号	3,506	5.58

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成27年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 91,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 62,601,000	62,601	
単元未満株式	普通株式 152,251		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	62,844,251		
総株主の議決権		62,601	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株(議決権2個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式952株が含まれております。

【自己株式等】

平成27年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社京三製作所	横浜市鶴見区平安町 二丁目29番地の1	91,000		91,000	0.14
計		91,000		91,000	0.14

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成27年7月1日から平成27年9月30日まで)および第2四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,650	3,475
受取手形及び売掛金	29,531	15,661
製品	3,376	3,810
半製品	3,095	3,213
仕掛品	12,718	18,240
原材料及び貯蔵品	363	365
繰延税金資産	1,724	2,431
その他	269	605
貸倒引当金	21	44
流動資産合計	55,708	47,758
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	8,311	7,976
その他（純額）	4,646	4,633
有形固定資産合計	12,958	12,610
無形固定資産	1,240	1,294
投資その他の資産		
投資有価証券	14,889	14,832
繰延税金資産	48	52
その他	1,309	1,268
貸倒引当金	20	20
投資その他の資産合計	16,227	16,132
固定資産合計	30,426	30,037
資産合計	86,135	77,795

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	12,752	11,295
短期借入金	10,350	4,000
1年内返済予定の長期借入金	5,480	2,050
未払法人税等	789	72
役員賞与引当金	93	30
受注損失引当金	1,364	1,137
その他	6,689	5,164
流動負債合計	37,519	23,749
固定負債		
長期借入金	3,900	11,750
退職給付に係る負債	3,103	3,119
資産除去債務	121	124
環境対策引当金	47	47
繰延税金負債	1,794	1,702
その他	207	182
固定負債合計	9,174	16,926
負債合計	46,693	40,675
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,270	6,270
資本剰余金	4,625	4,625
利益剰余金	23,081	20,968
自己株式	40	41
株主資本合計	33,936	31,823
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	5,715	5,524
為替換算調整勘定	101	28
退職給付に係る調整累計額	312	256
その他の包括利益累計額合計	5,504	5,296
純資産合計	39,441	37,119
負債純資産合計	86,135	77,795

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	1 20,880	1 19,397
売上原価	18,559	16,815
売上総利益	2,321	2,581
販売費及び一般管理費		
給料及び手当	1,322	1,307
賞与	358	387
役員賞与引当金繰入額	25	30
退職給付費用	167	162
減価償却費	104	170
荷造及び発送費	480	451
貸倒引当金繰入額		23
その他	2,702	2,657
販売費及び一般管理費合計	5,159	5,190
営業損失()	2,838	2,608
営業外収益		
受取配当金	85	110
受取保険金	167	124
受取補償金	7	2
持分法による投資利益	9	
為替差益	55	
その他	80	58
営業外収益合計	406	295
営業外費用		
支払利息	83	83
資金調達費用	22	156
持分法による投資損失		13
為替差損		94
その他	7	8
営業外費用合計	113	357
経常損失()	2,546	2,670
特別利益		
固定資産売却益	0	2
投資有価証券売却益	33	
投資有価証券償還益		185
特別利益合計	33	188
特別損失		
固定資産除売却損	72	7
ゴルフ会員権評価損	2	
環境対策引当金繰入額	89	
特別損失合計	164	7
税金等調整前四半期純損失()	2,677	2,489
法人税等	778	690
四半期純損失()	1,898	1,799
非支配株主に帰属する四半期純損失()		
親会社株主に帰属する四半期純損失()	1,898	1,799

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
四半期純損失()	1,898	1,799
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	961	191
為替換算調整勘定	47	72
退職給付に係る調整額	47	55
その他の包括利益合計	1,056	208
四半期包括利益	842	2,007
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	842	2,007
非支配株主に係る四半期包括利益		

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	2,677	2,489
減価償却費	852	854
貸倒引当金の増減額(は減少)	13	23
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	91	99
持分法による投資損益(は益)	9	13
受取利息及び受取配当金	104	124
支払利息	83	83
投資有価証券売却損益(は益)	33	
投資有価証券償還損益(は益)		185
売上債権の増減額(は増加)	13,500	13,856
たな卸資産の増減額(は増加)	7,433	6,084
仕入債務の増減額(は減少)	899	1,446
その他	510	1,376
小計	2,846	3,223
利息及び配当金の受取額	90	116
利息の支払額	82	76
法人税等の支払額	1,126	805
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,728	2,457
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	562	495
定期預金の払戻による収入	228	102
投資有価証券の取得による支出	13	23
関連会社株式の取得による支出	140	258
投資有価証券の売却による収入	374	
投資有価証券の償還による収入		242
有形固定資産の取得による支出	836	1,071
無形固定資産の取得による支出	191	233
その他	49	52
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,190	1,685
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,000	6,350
長期借入れによる収入		9,000
長期借入金の返済による支出	1,065	4,580
配当金の支払額	313	313
その他	55	42
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,434	2,286
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	40
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,884	1,554
現金及び現金同等物の期首残高	4,655	4,623
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	182	
現金及び現金同等物の四半期末残高	1 2,953	1 3,069

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法の適用の範囲の変更)

(1) 連結の範囲の重要な変更

電気機器事業の拡大を図ることを目的としてKyosan USA Inc.を設立し、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(2) 持分法適用の範囲の重要な変更

インド市場における信号システム事業の拡大を図ることを目的としてTVM Signalling and Transportation Systems Private Limited の株式を取得し、当第2四半期連結会計期間より持分法の適用範囲に含めております。

(会計方針の変更)

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成25年9月13日)、「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成25年9月13日)及び「事業分離等に関する会計基準」(企業会計基準第7号 平成25年9月13日)等を、第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更及び少数株主持分から非支配株主持分への表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間及び前連結会計年度については、四半期連結財務諸表及び連結財務諸表の組替えを行っております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

当社グループの主力事業であります信号システム事業は、主要顧客が鉄道各事業者および官公庁であるため、売上高は期末にかけて増加する傾向があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
現金及び預金勘定	3,368百万円	3,475百万円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	414	405
現金及び現金同等物	2,953	3,069

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月24日 定時株主総会	普通株式	313	5.0	平成26年3月31日	平成26年6月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月6日 取締役会	普通株式	313	5.0	平成26年9月30日	平成26年12月2日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月24日 定時株主総会	普通株式	313	5.0	平成27年3月31日	平成27年6月25日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年11月6日 取締役会	普通株式	313	5.0	平成27年9月30日	平成27年12月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額 (注)1 (百万円)	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2 (百万円)
	信号システム 事業 (百万円)	電気機器 事業 (百万円)	計 (百万円)		
売上高					
外部顧客に 対する売上高	16,713	4,167	20,880		20,880
セグメント間の内部 売上高または振替高	14	278	292	292	
計	16,727	4,445	21,173	292	20,880
セグメント利益 または損失()	968	8	959	1,878	2,838

(注)1 セグメント利益または損失()の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用1,878百万円が含まれております。なお全社費用は管理部門等に係る費用であります。

2 セグメント利益または損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

	報告セグメント			調整額 (注)1 (百万円)	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2 (百万円)
	信号システム 事業 (百万円)	電気機器 事業 (百万円)	計 (百万円)		
売上高					
外部顧客に 対する売上高	15,344	4,053	19,397		19,397
セグメント間の内部 売上高または振替高	13	244	258	258	
計	15,357	4,297	19,655	258	19,397
セグメント損失()	475	70	545	2,063	2,608

(注)1 セグメント損失()の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用2,063百万円が含まれております。なお全社費用は管理部門等に係る費用であります。

2 セグメント損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額および算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額	30円27銭	28円68銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額(百万円)	1,898	1,799
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純損失金額(百万円)	1,898	1,799
普通株式の期中平均株式数(千株)	62,728	62,725

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第151期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)中間配当については、平成27年11月6日開催の取締役会において、平成27年9月30日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	313百万円
1株当たりの金額	5円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成27年12月2日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年11月2日

株式会社京三製作所
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	片岡久依
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	細野和寿

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社京三製作所の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成27年7月1日から平成27年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成27年4月1日から平成27年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社京三製作所及び連結子会社の平成27年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。